

一

次の各問いに答えなさい。

問一 次の各文の——線のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 コウコウ息子と評判になる。
- 2 危険をサツチする。
- 3 ドクソウ的な作品を描く。
- 4 ミツペイした容器に入れる。
- 5 朗らかな表情を見せる。
- 6 法外な要求を突きつける。
- 7 羽毛布団を使用する。
- 8 校舎の屋上に立つ。

問二 次のことわざの□に入る漢字をあとのア〜クから一つ選んで、それぞれ記号で答えなさい。

- 1 海老^{えび}で□を釣る
- 2 □の甲より年の功
- 3 捕らぬ□の皮算用

- 4 立つ□跡を濁^{にご}さず
- 5 □心あれば水心

- ア 亀^{かめ} イ 鷹^{たか} ウ 鯛^{たい} エ 魚 オ 犬 カ 猿^{さる} キ 鳥 ク 狸^{たぬき}

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ゲストハウスの前にある駐車場ちやうしやじやうの一面を借りて、地面に並べた行動記録装置*1にゴミダマを一匹ずつ入れ、予備実験を行う。実験は、通常「予備実験」と呼ばれる小規模のお試し実験を行い、不具合を改良したあとで大規模な「本実験」を行う。不具合に気づかずいきなり本実験を行うと、豪快ごうかいに失敗して労力が無駄むだになる上、せっかくのサンプルを台無しにすることがある。念入りな

I

こそが実験成功のカギを握っている。

エサや交尾相手こうびを探すとき、動物は活発に動き回る。野外のゴミダマはおそらくエサを探し求めて動き回っていたと推測し、実験には、一度エサを与えてから3日以上エサ抜きにして、腹ペコ状態にしたメスのみを使用した。このように、実験前に虫の生理的なコンディションを整えておくのも大切だ。

朝5時に起き、整列させておいた行動観察装置（元お皿）にゴミダマをリリース。3時間後には、ほとんどのゴミダマがパイプの中に隠れてかくいる。野外で観察したように、日中はそのまま穴の中に隠れたままで、日が暮れるとパイプから出てきて活発に動きはじめた。夜中も動き回っている。予備実験で確かな手ごたえを感じ、これで安心して本実験に臨めるぞと眠りについた。

ところが、夜が明けると、足跡あしあとだけを残し、多数のゴミダマが忽然と姿を消していた。失敗である。夜中にゴミダマは超活発になり、容器から脱走したのだろう。製品に不備が見つかったので工場長に依頼し、容器のフタに「ネズミ返し」をつけて逃げられないようにして、再び予備実験を行う。にもかかわらず、次の日も止まらない失踪しっせう。

おかしい。設計は完璧かんぺきなはずだ。誰かが私の成功を妬みねた、妨害ぼうがいしているとしか考えられない。研究所のセキュリティ係にゴミダマを盗まなかつたか聞こうかと思つたが、そんなものほしいわけがない。ぬう、忌々いまいましい謎の失踪劇の裏には何かあるはずだ。

あくる日、無残にも噛みちぎられたゴミダマを容器内で発見した。何者かがゴミダマに襲い掛かった決定的な証拠だ。犯人の手がかりが残されていなか現場検証をすると、容器の周りの地面には小動物らしき足跡があった。小動物はかわいいと相場が決まっているが、我が実験を妨さまた

げる者は何人たりとも許さん。とつかまえてこらしめてやる。

犯行推定時刻は夜間だ。今夜、確実に捕まえてやる。勝利は犠牲の上に成り立つ。ゴミダマに囷おわりになってももらい、犯人をおびき寄せる。張り込みを開始し、一時間おきにパトロールすることにした。犯人らしきものは現れないが、眠い。余計な手間暇ひまかけやがってと怒りが込み上げてくる。

3回目のパトロール中、ライトで照らすと、得体の知れないトゲの塊かたまりが。えっ？ トゲ？ 何故こんなところにトゲが？ なんとハリネズミだ。野生のハリネズミが家の前にいることに啞然あぜんとする。犯人のほうも突然、自分よりも大きい動物が近づいてきたので、動揺どうようを隠かくせない。丸まったままの鉄壁てつへきの防御状態ぼうぎょでやり過ぎごそうとしている。

扱いに困り、とりあえず容器ごと家に持ち込む。そのまま廊下ろうかにホウチ②し、一度部屋に入って扉の隙間すきまから眺ながめていると、ハリネズミは恐る恐る動き出し、体に似合わない細い足でチョロチョロと駆け出した。

「めっちゃかわいい！」

最初は犯人を踏み潰つぶしてやろうかと思っていたが、胸キュンのあまり怒いかりを忘れた。ただ、このまま外に逃がすとまたゴミダマを喰くわれかねないので、しばらくハリネズミと同棲*2することにした（どうやら自分には同棲癖くせがあるようだ）。

この予備実験を通し、私は大きなミスを犯していたことに気づいた。そう、「**II**」の存在を忘れていたのだ。ゴミダマが夜行性なら、ゴミダマをエサとするハリネズミも夜行性だ。今回の一件で、野生では当たり前前の「喰うー喰われる」のシビアな関係を身をもって体験できた。

A 温室育ちの私にとって、この出来事はすさまじく新鮮しんせんだった。

ひとまず天敵てんてきを排除はいじょできたので、これで本実験ができると思っていた。しかし、自然はことごとく私の予想を超えていく。

さすがに今度はうまくいくだろう。次の日、念には念を入れて予備実験をセットし最終確認を行ったところ、またハリネズミが出現した。そいつも同棲の刑に処す。徹底てつていしないと自然に打ち勝つことはできない。

観察容器の周りにバリケードを作り、天敵が侵入しんにゅうできないようにした。これでようやくゴミダマを失うことなく本実験をすることができる。

2時間おきの観察を3日間ぶつ通しで行い、見事にゴミダマの活動パターンから夜行性であることを裏付けるデータがとれた。

2匹のハリネズミたちには、私の部屋の前の縦横4mの廊下で生活してもらうことにした。日中はダンボールで作った隠れ家に潜ひそみ、日が暮

れるとエサを求めて歩きはじめる。せっかくなので名前をつけることにした。前野家^{まえの}では、代々男子には「郎」がつく。2匹ともオスとみなし、一匹目にはハリネズミの頭文字「ハ」をとり「ハロウ」、二匹目は親父の「勇一郎」から「ユーロウ」と名付けた。思いがけずかわいいペットが、バッタ研究チームに加入した。

ハロウたちには、実験終了後のゴミダマをエサに与えていたが、ゴミダマの数にも限りがある。試しにゴミダマ用に買ってきていたキャットフードをあげたら、ポリポリと食べている。同棲初日は怖^{こわ}がって近寄ってこなかったが、腹が減ったら四の五の言ってられないはずだ。申し訳ないけど、一日エサを与えず腹ペコにしてやったら、私の手のひらから直接エサを食べはじめた。どうやら、私の安全性を認識してくれたようだ。かなり世渡り^{よわた}上手で賢い動物である。ならば、芸を仕込んでみようではないか。

犬は、エサをあげるときに笛を吹いたり、手拍子^{てびょうし}をし続けたりすると、それらの刺激^{しげき}がエサをもらえるサインだと学習する。ハリネズミは何の刺激を学習できるだろうか。

私は、家の中で履^はいているサンダルで床^{ゆか}をシャカシャカこすってから、エサをあげるようにしてみた。すると一週間ほどで、ハロウがサンダルの音色^{さそ}に誘^{さそ}われてエサをねだりにすり寄ってきた。なんと賢い。そうか、この学習能力^Cの高さで、連日ゴミダマを失敬しに来ていたに違^{ちが}いない。

その後も我々の距離^{きより}はどんどん縮まり、しまいには腹が減ると、私の部屋の扉をガリガリとノックし、エサをねだりにやってくるまでになった。

「コータローのゴミダマをゴンブー（ハリネズミ）が食べていた」

テイジャニが研究所中に言いふらしたので、会う人みんなに大笑いされた。予備実験の失敗を、笑ってもらえるとは。

それにしても、自然は驚異^{きょうい}の塊^{かたまり}だった。このゴミダマの観察を通して、野外では、実験室では想定できないことがたくさん起こっていることを改めて思い知らされた。

今回の一連の出来事をババ所長に報告したところ、自然の本当の姿を思い知らされるクイズを出された。

バ「問題！ 電線に小鳥が5羽止まっています。銃には弾が3発。さあ、何羽仕留められますか？」

前「もちろん3羽！」

バ「ノン！ 正解は1羽です。」 X 「だろ？ いいかコータロー、覚えておけ、これが自然だ。自然は単なる数学じゃ説明できないのだよ。自分で体験しなければ、自然を理解することは到底不可能だ。自然を知ることが研究者にとって強みになるから、これからも野外^④チヨウサをがんばってくれ、ガツハツハ」
前「あああ、所長おお」

以前の自分も含め、大勢の若い研究者はパソコンの前で、オフィスの中で研究している。自然を理解せずに生物学を勉強することが、どれだけ多くの危険に満ちていることか。気をつけなければならないと強く感じた。ハロウは私に自然の大切さを教えに来てくれた、砂漠からの使者だったのだ。

(前野ウルド浩太郎『バッタを倒しにアフリカへ』より)

*1 ゴミダマ：ゴミムシダマシ科に属する昆虫の一種である、ゴミムシダマシを指す。 15ミリメートルほどの甲虫。

*2 同棲：いっしょに住むこと。

問一 ——線①④の漢字をひらがなに、カタカナを漢字に直しなさい。

問二 本文中 I・II にあてはまる言葉として適切なものを、それぞれ本文中から抜き出して答えなさい。

問三 ——線A「温室育ち」とはどのような状況を指しますか。具体的に表現されている部分を、本文中から三十字で探し、はじめとおわりの五字を抜き出しなさい。(句読点も字数に含めます)

問四 ——線B「私の予想を超えていく」とありますが、「私」は、どのような予想をしたのですか、また、実際にはどうなったのですか、説明しなさい。

問五 ——線C「学習能力の高さで、連日ゴミダマを失敬しに来ていた」とありますが、そのとき、ハリネズミは何を学習していたのですか。その説明として最も適切なものをあとのA～Eから一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 笛を吹いたり、手拍子をし続けたりすると、エサをもらえるサインだと学習していた。
- イ 夜中に駐車場に行けば、エサであるゴミダマを食べられると学習していた。
- ウ サンドルで床をシャカシャカこする音がすると、エサをもらえるサインだと学習していた。
- エ お腹が減ったら部屋の扉をガリガリとノックすれば、エサをもらえると言っていた。

問六 本文中「X」にあてはまる、ババ所長の言葉として最も適切なものをあとのA～Eから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 古い銃は一発撃ったらすぐ故障するもの
- イ 人間が近付いただけで野生動物は逃げる
- ウ 他の鳥は一発目の銃声を聞いたから逃げる
- エ 撃った弾がすべて命中するとは限らない

問七 ——線D「自然を理解せずに生物学を勉強することが、どれだけ多くの危険に満ちていることか」とありますが、なぜ危険なのですか。本文中の言葉を使って、**五十字以内**で説明しなさい。ただし、解答には必ず次の言葉を使いなさい。

体験 実験室

問八 本文の内容を説明したものととして、最も適切なものをあとの**ア～エ**から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア** 誰かが「私」の成功を妬み、妨害していたため予備実験は失敗した。
- イ** 入念な予備実験の結果、ハリネズミには高い学習能力があるとわかった。
- ウ** 「喰う―喰われる」の関係性は、野生では当たり前だが、私たちは忘れがちである。
- エ** ゴミダマを食べられた失敗談は、研究所の他の職員に笑いものにされた。

三

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

結局、その日、台風は大きくそれた。岩井さんがつくった焼きそばを二人は食べた。

「この話、したっけ？エジプトの話」

「どの話？」

「砂漠の真ん中でケンカした話」

岩井さんは、東南アジアや中近東に中古の建設機械を売る仕事をしている。

「車に乗っていて、仕事のことと言い合いになってさ、そしたら向こうのヤツ、怒ってオレ一人を砂漠の真ん中で降ろして、帰っちゃってさ」
「で、どうしたの？」

「しょうがないじゃない。鞆かばん持って、フツーに歩いてたんだよ」

「フツーって？」

「だから、日本のオフィス街にいる時みたいにさ、歩いてたわけよ。そしたら、

I

向こうも悪いと思って車で引き返してきたんだよ。オ

レ、フツーに歩いてるじゃん。フツーの顔して、向Aこうのヤツ、ものすごくビックリしちゃってさ。すごいって。ミスターイワイはグレートだつて。その後、仕事はうまくいったんだけど——さっき言ったじゃない？わかってないって。言う通り、わかってないんだよね。だって、砂漠の真ん中なのに、オレ、仕事のこと考えてたんだもん。地元のヤツらにしたら、ありえないよな。そりゃ、ビックリするよな。確実に死ぬ状況じつじょうだったわけだからさ。言う通りだよ。オレ、麻痺まひしちゃってるのかな。どっか、こわれちゃってんだろうな」

テツコは、スーツの岩井さんが砂漠の真ん中で真面目くさった顔つきで歩いているところを想像した。それは、

II

岩井さんらしかった。

「テツコの言う通り、人は死ぬよなあ」

残った焼きそばをかきこんで、岩井さんはそう言った。

それから、^①神妙な顔で「決心した」と背中をこちらに向けた。

「そっだよ。人は死ぬんだよ。おし、覚悟したッ。さあ、やってくれ」

そういえば、シップはそのままだった。

「好きなのをはがしてくれ」

「大丈夫なの？」

「いいから、パッとやってくれ」

テツコは一番下のヤツを、思い切ってはがした。

「イタタタタ」

言う通り、相当粘着力がきついらしく肌はだが赤くなっている。その赤い肌に、マジックで「大吉」と書かれていた。

「何だった？」

痛みながら岩井さんは聞く。

「大吉って書いてある」

「そうか。じゃあ、結婚けっこんはしないけれど、二人はこのまま続けた方がいいってことだな」

「結婚、しなくてもいいの？」

「スポーツと同じさ。いいイメージつくってからのの方が絶対にいいって」

テツコは他のものはがしたかったが、岩井さんは、絶対にダメだと背中を死守した。おそろくどれも「**X**」だったのだろう。

「これ、誰の字なの？」

「うん、下のコンビニのバイト君に手伝ってもらった」

いつまでたっても制服の似合わないバイト君の字はうまくはなかったが、本当に大吉だろうと思わせる、迫力はくりよくのある字だった。プラットホームで盗み見した女の子の手紙の字と、ちよつと似ていた。

「私が来る前、こんなことしてたんだ」

「焦あせったよ。時間より早く来るからさ」

岩井さんは砂漠の真ん中Cでも、補助線が見えると思って歩いてきたのだろうか。諦めることなく歩いていると、ふいに③、次の世界へのドア

が見えるのかもしれない。テツコは、結婚というもののイメージがまるでつかめなかったが、「家族がキライだ」と言ったとたん、自分が歩いてゆくべき方向が見えた気がした。 **Ⅲ**、嫌いではない方向へ進んでゆけば、いつかたどりつけるだろう。

(木皿泉『昨夜のカレー、明日のパン』より)

問一 ――線①～③の本文中における意味として適切なものをそれぞれあとのア～エから一つ選んで答えなさい。

① 神妙な顔

ア 興奮を抑えている様子

イ 自信が無く不安になった様子

ウ 何かをあきらめてしまった様子

エ 普段とは違って真剣で静かな様子

② 盗み見

ア ざっと見る様子

イ じろじろ見る様子

ウ ちらっと見る様子

エ ぼんやり見る様子

③ ふいに

ア 思いがけなく、突然に事が起こる様子

イ せっかくの努力が無駄になってしまった様子

ウ 時間をかけてだんだんと明らかになっていく様子

エ 確実に物事が展開する様子

問二 本文中 **Ⅰ**～**Ⅲ** にあてはまる言葉として最も適切なものを、あとのア～オからそれぞれ選んで記号で答えなさい。

ア すっきり

イ 少なくとも

ウ さすがに

エ それでもなお

オ いかにも

問三 ——線A「向こうのヤツ、ものすごくビックリしちゃってさ。すごいって。ミスターイワイはグレートだつて」とありますが、それは誰のどんな様子に驚き、ほめたたえたのですか、説明しなさい。

問四 本文中と同じ用法のらしくを次のア、エから選んで、記号で答えなさい。

ア いかにも専門家らしく見える。

イ すばらしく美しい風景だ。

ウ もうすぐ来るらしく待ちきれない様子だ。

エ 自分らしく生きることが目標だ。

問五 本文中（X）に入る漢字二字を本文中より抜き出して答えなさい。

問六 ——線B「こんなことしてたんだ」とありますが、岩井さんはどんなことをしていたのですか、説明しなさい。

問七 ——線C「でも」とありますが、本文と同じ用法の「でも」という言葉を使って、短文を作りなさい。ただし、解答には主語と述語を必ず書きなさい。

問八 ———線D「自分が歩いてゆくべき方向」とありますが、テツコにとっての「自分が歩いてゆくべき方向」はどのような方向だったのですか。
五十字以内で説明しなさい。ただし、解答には次の言葉を必ず使いなさい。

家族 結婚

問九 本文の説明として間違っているものを、あとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 風景描写が色彩豊かに描き込まれていることで、登場人物の置かれた状況がすみずみまで想像できる。
- イ 会話文の中でカタカナを効果的に使うことによって、独特のとぼけた雰囲気を持たせている。
- ウ 「家族」「結婚」というよくある話題を扱いながら、新鮮な視点で物語を描いている。
- エ 会話文がテンポよく進むことで、重くなりすぎず、軽やかな印象を与えている。

問題は以上です。